

平成31年3月14日(木)

2011年12月

2011年12月に、父を亡くした。父もまた教員であった。平二中と草野中、大野中で教鞭をとり、下三坂小、四倉小で教頭、田人二小、大野一小江名小、四倉小で校長を務めた。

一月に肺がんのステージ4と診断されてから、約一年の間、闘病生活を送った。母がつきっきりで看病した。最後は労災病院で亡くなった。

父の死はいつかは訪れるものと知りながら、自分のこととなると受け止めるのが難しいことを実感した。

19日の朝、亡骸を自宅に運んで、様々な手続きをこなしていき、24日の葬儀となった。葬儀後、次の年の1周忌まで、無我夢中で過ごす中、なんとなく、祖父母が死んで父親が死んでという順番が来たのだということに心が落ち着いていくのがわかった。きっと、この後は、母親の番だし、その後は、叔父叔母の順に物事は回りまわって、自分の時まで行くのだろうと考えていくことができた。

もし、この順番が狂ったらどうだろう。それは、受け止めるのに、ものすごい時間と労力がかかることが想像できる。一人きりで、過ごさなければならぬ時間に耐えることができるだろうか。花や星を見て、心を和ませることができるだろうか。

生徒諸君、この順番が命を受け止める唯一の薬なのだと私は思います。だから、校長より、決して先にはいってくれるな。せめて、校長の老い先短い余生をよく見てから道を進んでほしいと考えます。

生徒諸君もう一度言うよ。校長が死んだら必ず、線香を手向けてくれ。この順番は間違わないでね。